

復興支援の歩み200点

岩手・野田で活動 チーム・オール弘前

弘大資料館で企画展

弘前大学には震災当時、常設のボランティアセンターがなかったが、震災発生後、官民学連携の「チーム・オール弘前」が発足。野田村

現在、復興支援活動のほか、除雪支援や子どもの学習支援なども行っている。「チーム・オール弘前」は「弘前モデル」として日本災害復興学会などでも注目を集めている。

企画展は災害の記憶を風化させないことや、震災当時幼かった学生たちに東日本大震災について知ってもらうことなどを目的に企画した。写真をふんだんに使ったパネルでは、11～25年までの取り組みが紹介されている。

弘前大学地域創生本部ボランティアセンターと弘前大学資料館は企画展「ボランティアセンター 東日本大震災復興支援活動～15年の歩み～」を文京町地区キャンパス内にある同資料館で開催している。東日本大震災発生直後から大学、市民、行政が連携して被災地・岩手県野田村の復興支援に取り組んだ「チーム・オール弘前」の15年間の歩みを紹介。写真や動画など約200点を展示している。27日まで（日曜、祝日休館）。（新岡歩南）

震災15年 あおり

弘 前

企画展「ボランティアセンター 東日本大震災復興支援活動～15年の歩み～」を紹介する李センター長



「などわどの絆」チームオール弘前と野田村の絆」と題した活動の様子が分かる動画も放映。実際に横になることができる段ボールベッドがある避難所体験コーナーや文化財レスキュー活動について紹介したコーナーも設けられている。

李永俊センター長は「被災地支援だけでなく地域のさまざまな課題を解決する力になれるボランティアセンターとして成長できた。地域の宝として今後も見守っていただきたい」と語った。

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp